

愛知県感染症情報

Infectious Diseases Weekly Report

平成 17 年第 40 週(10 月 1 週 10/3~10/9)

平成 17 年 10 月報合併号

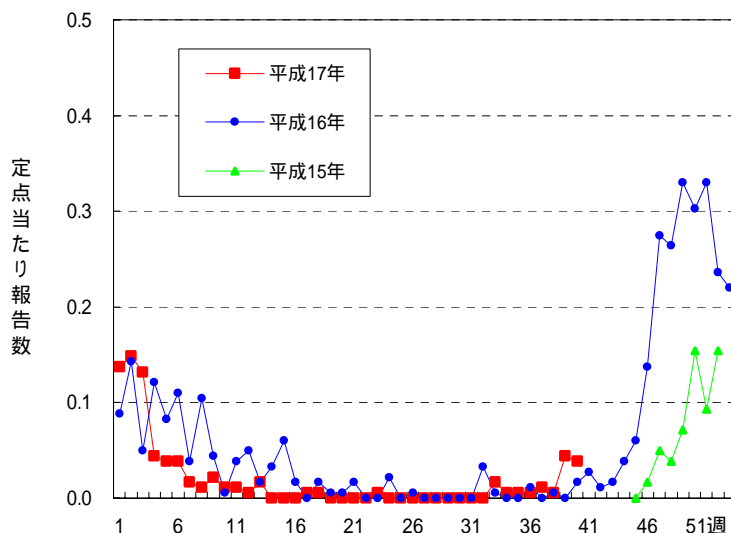
(作成) 愛知県感染症情報センター

連絡先: 052-910-5619 E-mail: eiseiken@pref.aichi.lg.jp

流行状況

これから注意する感染症

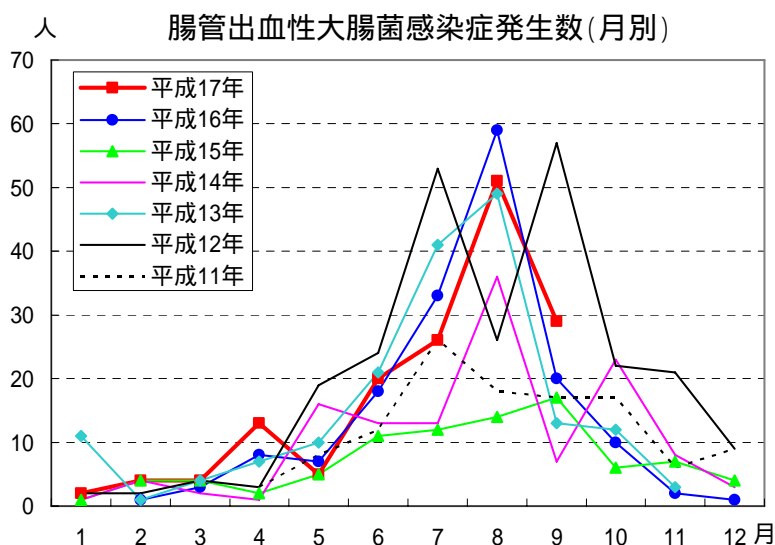
RSウイルス感染症



RSウイルス感染症について (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/rs.html>)

その他の疾病のグラフについては「グラフ総覧」(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>)をご覧ください。

腸管出血性大腸菌感染症月別発生数の推移



腸管出血性大腸菌感染症 (http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/eaggec.html#2_4)

愛知県感染症情報 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>)

国立感染症研究所感染症情報センター (<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)

予防接種法に関する政省令の改正について (<http://idsc.nih.go.jp/vaccine/2005reg.html>)

予防接種スケジュール (<http://idsc.nih.go.jp/vaccine/dschedule.html>)

麻しん・風しんの予防接種方法が変わります (http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/hi_3.html)

平成 17 年度疾患別ウイルス検出状況速報 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/prompt.html>)

9 月の一～五類感染症 (全数把握対象) 発生状況

平成 17 年度に発生のおった疾病名 内は全数把握対象疾病数		平成 17 年 9 月			平成 17 年度 累 計 (愛知県)	備考 (9 月)
		県 分 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県		
一類 感染症 7						発生報告無し
二類 感染症 6	細 菌 性 赤 痢	6		6	20 (1)	
	腸 チ フ ス		1	1	4	
	パ ラ チ フ ス				3	
三類 感染症 1	腸 管 出 血 性 大 腸 菌 症 感 染	24 (6)	5	29 (6)	144 (37)	026 2 件 0157 27 件
四類 感染症 30	E 型 肝 炎				1	
	A 型 肝 炎				2	
	オ ウ ム 病				3	
	デ ン グ 熱				1	
	ボ ツ リ ヌ ス 症				1	
	マ ラ リ ア				6	
	レ ジ オ ネ ラ 症	2	1	3	12	
五類 感染症 14	ア メ ー バ 赤 痢	1	4	5	27	
	ウ イ ル ス 性 肝 炎 (E 型 肝 炎 及 び A 型 肝 炎 を 除 く 。)				1	
	急 性 脳 炎 (ク イ ス ト ナ イ ル 脳 炎 及 び 日 本 脳 炎 を 除 く 。)				2	
	ク ロ イ ツ フ ェ ル ト ・ ヤ コ ブ 病	1		1	3	孤発性 1 件
	劇 症 型 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 感 染 症		1	1	1	
	後 天 性 免 疫 不 全 群 症 候	2	5	7	40	AIDS 3 件 無症候性 1 件 その他 3 件
	ジ ア ル ジ ア 症				1	
	梅 毒	3	1	4	26	早期顕症 3 件 無症候 1 件
	バ ン コ マ イ シ ン 耐 性 腸 球 菌 感 染 症	1		1	2	

() 内は無症状病原体保有者

五類感染症（月報定点把握対象）発生状況

No	疾 病 名	平成 17 年 9 月			平成 17 年 8 月		
		県 分 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県 全体	県 分 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県 全体
1	性器クラミジア感染症	118	33	151	113	33	146
2	性器ヘルペスウイルス感染症	30	8	38	40	7	47
3	尖形コンジローマ	45	8	53	28	13	41
4	淋菌感染症	64	19	83	93	18	111
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	50	19	69	68	7	75
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症						
7	薬剤耐性緑膿菌感染症						

上記の報告数は感染症月報指定届出機関(性感染症：51、基幹：13 医療機関)で把握したものです。

感染症の類型及び定義

類 型	定 義
一類感染症 (7 疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症。患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者について入院等の措置を講ずることが必要。
二類感染症 (6 疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症。患者及び一部の疑似症患者について入院等の措置を講ずることが必要。
三類感染症 (1 疾病)	感染力及び罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性は高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こしうる感染症。患者及び無症状病原体保有者について就業制限等の措置を講ずることが必要。
四類感染症 (30 疾病)	動物、飲食物等の物件を介して人に感染し、国民の健康に影響を与えるおそれがある感染症（人から人への伝染はない。媒介動物の輸入規制、消毒、物件の廃棄等の物的措置が必要。）
五類感染症 (42 疾病)	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症。

定点コメント（名古屋市除く）

尾張西部地区

1歳女 カンピロバクター腸炎
乳幼児で鼻汁、咳、喘鳴を伴うもの少し
目立ちます。

【一宮市 あさのこどもクリニック】
病原性大腸菌O166 4歳男
マイコプラズマ肺炎 7名
【一宮市 城後小児科】
A群溶連菌が目立ちました。
【犬山市 武内医院】

喘息性気管支炎が目立つ。
仮性クループ散発しています。
【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】
気管支喘息、喘息様気管支炎が増加してい
ます。
【江南市 みやぐちこどもクリニック】
34歳男 マイコプラズマ肺炎
【春日町 丹羽医院】

尾張東部地区

感染性胃腸炎が増えています。
【瀬戸市 津田こどもクリニック】
咽頭結膜熱 3歳男 1例あり。
特定の保育園で流行性耳下腺炎流行あ
り。
その他突発疹、ヘルパンギーナ散発 感
染症以外では喘息発作が増加
【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】
マイコプラズマ肺炎が続いています。
アデノウイルス感染症、水痘があります。
【春日井市 春日井市民病院】
プール熱少々
【春日井市 朝宮こどもクリニック】

感冒症状の児が増加しています。
【春日井市 竹内医院】
ムンプスの髄膜炎の入院あり。
【小牧市 小牧市民病院】
溶連菌感染、アデノウイルス感染が目立ち
ます。
【小牧市 志水こどもクリニック】
2歳女 ヘルペス
【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】
喘息の方が増えてきました。
【東海市 小児科ハヤカワ医院】
特に目立った感染症はありません。
【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

3歳男 アボットストレップA* (+)
2歳男 病原大腸菌O1
【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】
*ストレップA: A群 溶連菌抗原検出用キット
アデノ (+) 2歳女
サルモネラO4、病原大腸菌O18 VT
(-) 5歳男
カンピロバクター (+) 3歳男
【岡崎市 にいのみ小児科】

サルモネラO9 11歳女
【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】
マイコプラズマ肺炎 13歳男
【三好町 三好町民病院】
1歳女 E.coli O1 VT (-)
9歳男 E.coli O1 VT (-)
1歳男 サルモネラ O4
【幸田町 とみた小児科】

東三河地区

4歳男、5歳男 カンピロバクター
【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】
感染性胃腸炎の子が増えてきました。
【豊橋市 あずまだこどもクリニック】

川崎病3名入院あり。
喘息発作多い。
【豊川市 豊川市民病院】

一 ~ 三類感染症の発生状況

- 愛知県(名古屋市を除く。) -

腸管出血性大腸菌感染症

<関連リンク>

(http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/eagec.html#2_4)

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	備考
1	一宮	25	女	9/25	9/30	10/4	O157 VT1(+) VT2(-) 39週報の再掲
2	一宮	32	女	9/28	10/1	10/5	O157 VT1(-) VT2(+) 39週報の再掲
3	一宮	10	女	9/27	10/1	10/7	O157 VT1(+) VT2(+)
4	一宮	50	女		10/6	10/9	O157 VT1(+) VT2(+)
5	半田	3	女	9/27	9/30	10/4	O157 VT1(+) VT2(+)
6	半田	29	女		10/4	10/7	O157 VT1(+) VT2(+)
7	半田	1	男	10/1	10/4	10/7	O157 VT1(+) VT2(+)
8	半田	31	男		10/5	10/8	O157 VT1(+) VT2(+)
9	知多	26	女	9/30	10/1	10/2	O157 VT1(+) VT2(+)
*	師勝	1	男	9/23	9/26	9/30	O157 VT1(+) VT2(+) 39週の追加報告

四類・五類(全数把握)感染症の発生状況

- 愛知県(名古屋市を除く。) -

アメーバ赤痢1例(推定感染地域:国内、推定感染経路:経口感染)39週報の再掲
(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokede.html#5-1>)

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

町を歩いておられますと木犀の香りとモズの声を風が運んでくるのを感じるようになりました。いつも貴重な情報を有難うございます。9月後半のまとめをお送りします。

- 1) 名古屋市内：名鉄病院福田先生からは喘息様気管支炎や急性肺炎など下気道ウイルス感染症が多くなり、マイコプラズマ感染症も増加、入院の主体となっていて咽頭結膜熱は減少しているがまだ散発中でクループ症候群が増加傾向、城北病院渡辺先生からは相変わらず外来急患とも少なく下痢嘔吐症もほとんどなし、高熱持続者でまだアデノ陽性者がたまにあり、マイコプラズマ気管支炎・肺炎が多く細菌性髄膜炎少しあり、第二日赤岩佐先生からはRSウイルス感染症の入院例が散発、千種区今枝先生からは4歳女の気管支喘息1名以外目立つものはなし、三菱病院入山先生からは感染性胃腸炎1名、突発性発疹1名、A群溶連菌感染咽頭炎が1名、マイコプラズマ性2名を含む急性気管支炎・肺炎の入院11名、喘息発作で数日入院を要したのが数名あり、中京病院柴田先生からはRSウイルスによる入院が出始めた、大同病院水野先生からはRSウイルスによる気管支炎(喘鳴が著明な要入院例目立つ)、マイコプラズマ肺炎(要入院例がみられる)が目立ち風疹1名あり今後要注意とのお手紙でした。
- 2) 尾張地区：犬山市武内先生からは感染性胃腸炎と水痘が散発、江南市昭和病院小児科からは喘息発作、RSウイルス感染症、ムンプス髄膜炎の入院が目立つ、常滑市民病院上田先生からはムンプス(ムンプス髄膜炎の入院目立つ)、水痘、ウイルス性気管支炎(入院が目立つ)、手足口病が目立ち、肺炎球菌による肺炎の入院ありとのお手紙でした。
- 3) 三河地区：トヨタ病院木戸先生からは水痘とムンプスが散在、入院では胃腸炎と川崎病が目立つ、刈谷市田和先生からは感染性胃腸炎がパラパラ(軽症)乳幼児で38~39の発熱(2~3日)するものが少しずつあり、碧南市永井先生からはアデノウイルス感染症時々あり、ムンプスが目立つ、豊橋市宮澤先生からはムンプス、ウイルス感染症と思われる気管支炎の母子例など少数あり、長屋先生からは特に目立つものはない、とのお手紙をいただきました。有難うございました。

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

2005年9月23日(80巻38号) <http://www.who.int/wer/2005/wer8038/en/>

鳥インフルエンザ。インドネシア：05年9月16日、同国保健省発表。H5N1型による致死例(37歳女性死亡9月10日)あり、香港のWHO標準検査室で確認。当局はWHO支援の下に調査開始。インドネシアでは05年1月にH5N1型の感染発病者が発生したが二次伝播は家族、接触者共に否定的であった。

鳥インフルエンザ。ベトナム最新情報：05年9月19日保健省発表。中部ベニン州の35歳農夫が7月31日死亡、H5N1確定。04年12月以降の確定例数総計は64名（死亡21）となった。

日本脳炎。インド：7月19日～8月30日に北部ウタル・プラデシュ州の14地区から1,145例（296名死亡）の報告。隣接のビハール州からも入院例あり。この地方は媒介蚊のコガタアカイエカ発生濃厚地である。http://w3.whosea.org/en/Section10/Section392_10243.htm参照。

ポリオ。ソマリア：02年以来ポリオ発生のなかったソマリアの首都モガデシオで15か月女が05年7月12日発病。遺伝子解析進行中。

小児予防接種全国キャンペーンに平行したマラリア予防用殺虫剤塗布蚊帳普及活動。西アフリカ・トーゴ。04年12月：人口5,098,380のトーゴで殺虫剤処理した蚊帳(insecticide-treated bednets, ITNs。注：マラリア媒介アノフェレス蚊は何かに止まってから吸血する。蚊帳を殺虫剤処理すれば蚊の脚の先端から吸収されて蚊の駆除が出来るのでWHOが普及活動中で日本政府も支援中)の普及活動を生後5～59か月児を対象とした麻しんワクチン全国一斉接種の際、ポリオ生ワク普及と同時に実施。マラリア常在地である同国では03年の5歳以下小児の死因の1/4から1/3がマラリアであったがITNs内で寝ていた児は0.4%であった。本報は04年12月の全国一斉予防接種に平行して実施されたITNs普及活動の調査結果である（注：かなり詳細な長文。概略をまとめた）。当局による6地区の1か月後の調査では麻しん、ポリオ生ワクチン接種対象児2,599名で麻しんワクチン接種率93.1%、ポリオ生ワク接種率93.7%、ITNsで寝かせたのが90.8%、ITNsと平行して実施した抗マラリア剤ネベンダゾール1回投与内服率は92.7%であった（グラフあり）。WHOのコメントとしては本報は無料ITNsと集団予防接種活動を関連させた活動報告であり、活動の結果小児死亡の減少傾向が示唆されており、普及活動の成果の調査報告が期待されている。

世界のポリオ。05年9月1日時点の報告：世界各国の一覧表。05年に野生株ポリオが確認された国はイエメン438（確認438）、ナイジェリア377（377）、インドネシア230（226）、パキスタン53（53）、インド27（27）、スーダン26（26）、エチオピア15（15）、アンゴラ7（7）、アフガニスタン4（4）、ニジェール3（3）、サウジアラビア2（2）である。

ポリオ。野生株ポリオが根絶された国で野生株ポリオウイルスが発生した場合の対応に関するWHO専門委員会の勧告：野生株ポリオが確認されたら72時間以内に専門家委員会発足、発生状況やワクチン接種率、隣接国との共同作業の実績、分離ウイルスの遺伝子学的検索開始。戸別訪問による大規模緊急接種を最低3回、初発例発病4週以内に分離ウイルスの血清型に対応した単価ワクチンで開始。緊急臨時接種用に最低250万接種量準備、接種目標は90%以上とする。

マラリア。ニジェール：低栄養小児を中心としたマラリア死亡激増第三波に対してWHOはじめ国際機関によるアルテミシニン+抗マラリア剤多剤投与が05年9月20日開始されている。照会先Email：schmidj@who.int。

9月16～22日届出。コレラ：ブルキナファソ、ブルンジ、カメルーン、コンゴ民主共和国、ギニア、ギニアビサウ、モザンビーク、ニジェール。

2005年9月30日(80巻39号) <http://www.who.int/wer/2005/wer8039/en/>

コレラ。西アフリカ最新情報：05年9月23日時点で西アフリカ諸国は数週に及ぶコレラ発生の波に襲われ、現在も拡大中である。原因として季節(雨期。豪雨)要因と移住による人口密集という社会的要因が関与している。発生国8カ国(ベニン、ブルキナファソ、ギニア、ギニアビサウ、マリ、モーリタニア、ニジェール、セネガル)の詳細記事：略。
<http://www.who.int/topics/cholera/en/>参照。

黄熱。ブルキナファソと象牙海岸：05年9月23日、ブルキナファソからWHOに報告。同国東南部、象牙海岸との国境地帯で4例発生、セネガル・ダカールのパスツール研で確認。死亡1例は象牙海岸から来た4歳男。ブルキナファソ保健省と象牙海岸保健省は共同で発生地区の調査(人口移動著明)とワクチン緊急接種を準備中。

ポリオ。野生株ポリオと生ワクチン関連ポリオの検査室サーベイランス。04年1月~05年6月：現在世界で145の検査室がポリオ根絶活動のWHO認定標準検査室として急性弛緩性麻痺(Acute Flaccid Paralysis, AFP)患者からのウイルス分離同定、血清型、型内鑑別や遺伝子検索に参加している。検査サーベイランスの目標は15歳以下の非ポリオAFP患者報告数が人口10万当り1以上であり、AFP患者の80%以上から検査室診断に適切な便材料が搬入されること、と設定され、野生株流行地区のポリオ生ワクチン緊急接種作戦の基本となっている。本報は04年1月~05年6月の検査室サーベイランスの概略である。ネットワーク：現在123の国立研究所、15のWHO地区センター、7世界標準検査室で構成。04年1月~05年6月の間134,855検体(1年半前までの同期間より37%増)を検査。サーベイランス目標をこえて患者の95%以上から検査が実施されている。AFP患者から分離されたウイルスの型内鑑別(野生株かワクチン株か)は目標の80%をこえて85%に実施された(分離株の詳細な一覧表あり)。分離された野生株ウイルスの血清型：2型は99年インドで分離されたのを最後に消失。04年1月~05年6月で1型だけが分離されたのが14カ国、1型と3型が分離されたのは8カ国であった。野生株遺伝子型：1型ウイルスでは3種類の、3型では4種類の遺伝子型が検出され、地理的分布や伝播状況解析に利用されている(一覧表あり)。ワクチン由来ポリオウイルス分離状況：遺伝子解析から生ワクチン由来と考えられる株が便から分離されたのは04年中国(AFP2例、接触者3例)、05年インドネシア(AFP12例)、2型は04年ラオス、05年香港とサウジアラビアで、3型は05年マダガスカルでAFP1例と接触者8例から分離、下水など環境材料から2型ワクチン株がスロバキア、エジプト、イスラエルで分離(AFP発病なし)、日本では04年に生ワクチン接種後のサーベイランス材料から2型ワクチン株1株、05年には成人AFP患者1例と同居ワクチン定期接種後の小児(無症状)から3型ワクチン株分離の報告があった。まとめ：ウイルス検査室ネットワークがポリオ制圧計画進展に大きく寄与しているが特にインドネシア(バンドン)、インド(ラクナウ。注：ラクナウの医学研究所のウイルス研究室の研修生受入れと現地における技術移転を愛知県衛生研究所と名古屋大学医学部の国際協力事業として継続しWHO認可標準検査センターとして活躍中)、ナイジェリア(イバダン)などの各国国内センターが根絶計画促進に大きく貢献している。今後を期待したい。

9月23日~29日届出。コレラ：ベニン、ブルキナファソ、モーリタニア、セネガル

愛知県感染症情報

2005年第1週～第40週(平成17年1月3日～平成17年10月9日)(累計)

愛知県衛生研究所

愛知県	定点数					RSウイルス感染症	鳥インフルエンザ(高病原性を除く。)	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病*	伝染性紅斑	突発性発疹*	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																						
愛知県 (名古屋市を含む)	195	182	35	51	13	141	80,236	2,709	6,862	30,475	10,440	2,376	901	4,831	50	28	12,364	20	8,042	23	1,299	11	7	195	0	1	
総数 (名古屋市は除く)	125	112	24	37	12	115	63,771	2,073	4,700	21,825	8,388	1,963	715	3,713	39	15	9,713	13	6,368	16	1,005	11	7	195	0	1	
名古屋	70	70	11	14	1	26	16,465	636	2,162	8,650	2,052	413	186	1,118	11	13	2,651	7	1,674	7	294						
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	1	15	4,171	501	574	1,137	409	59	34	2	2	668	3	268		38			56			
海部	津島	7	7	2	2	1		3,211	24	127	331	78	83	136		1	542		599		39	1	1	14			
尾張中部	師勝	4	4	1	1			2,064	2	137	688	227	20	22	85	1	404		162	1	64						
尾張西部	一宮	16	12	3	4	1	3	4,491	167	329	1,873	500	262	34	2	1	637		601	1	94	1					
尾張北部	春日井	9	9	2	3	1	19	7,535	365	402	1,333	594	131	32	10	6	899	1	284		46	2	2			1	
	江南	6	6	1	2		8	2,731	178	516	1,729	677	105	43	1		774	2	514		47						
知多半島	半田	6	6	1	2	1	7	2,950	164	183	995	378	196	35	1		144	1	281	3	64			3			
	知多	7	7	2	2		7	3,766	130	421	1,113	417	65	29		1	458	1	413	1	27						
西三河南部	岡崎市	11	7	2	2	1	6	6,131	58	324	539	664	132	53	5		969		654	4	65						
	衣浦東部	13	13	2	4	1	6	9,033	76	426	1,788	1,080	135	134	3	1	1,013	3	616		180			12			
	西尾	5	5	1	2	1	12	1,893	20	203	739	439	159	41			501		212		27			1			
西三河北部	豊田市	9	9	2	4	1	10	4,651	43	423	4,780	784	127	62	9	1	1,147		525		111	3	3	80			
東三河南部	豊橋市	12	8	2	4	1	2	6,866	269	402	2,005	541	186	54	2		702		245	2	133	4		23			
	豊川	9	8	1	2	1	20	3,616	72	222	1,508	1,296	301	58	4	1	830	2	985	4	70		1	6			
東三河北部	新城	2	2			1		662	4	11	31	51	7	1			25		9								

* 豊橋市保健所から39週分(突発性発疹1件 手足口病1件)の訂正報告あり

愛知県感染症情報

2005年第1週～第40週(平成17年1月3日～平成17年10月9日)(累計)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	RSウイルス感染症	インフルエンザ(高病原性鳥を除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
計	115	63,771	2,073	4,700	21,825	8,388	1,963	715	3,713	39	15	9,713	13	6,368	16	1,005	11	7	195	0	1
～6ヶ月	52	319	16	9	336	215	19	2	256	12	1	107		7		8					
～12ヶ月	22	959	90	29	1,442	494	126	39	2,029	6		714	2	28		7					
0歳																	4		4		
1歳	19	3,279	337	141	3,203	1,428	465	43	1,315	4	2	2,145	3	290		33		1	28		
2歳	11	3,675	267	256	2,262	1,391	360	37	99	3	3	1,690	1	582	1	33			31		
3歳		4,334	402	534	2,002	1,745	371	78	13	2	1	1,705	1	1,040	1	49	1		26		
4歳	3	5,537	360	850	1,775	1,445	251	106		2	1	1,299	1	1,354		34			17		
5歳	3	5,473	246	950	1,555	831	180	117		1	3	934	3	1,123	1	25					
6歳	3	5,343	140	662	1,128	363	75	85		2		487	1	761	1	22					
7歳	2	4,021	66	412	823	188	34	65			2	255		403		12					
8歳		3,659	35	248	694	91	26	52		1		138		250	1	16					
9歳		3,188	33	177	553	50	15	39				89	1	151		9					
5歳～9歳																			47		
10歳～14歳		5,827	43	239	1,375	96	14	41	1	1	1	102		230		27			18		
15歳～19歳		993	4	23	486	11		1				9		23	1	26			1		
20歳～			34	170	4,191	40	27	10		5	1	39		126			6				
20歳～29歳		4,271													3	155		1	5		
30歳～39歳		6,135													2	279		2	6		1
40歳～49歳		2,631													2	92		2	2		
50歳～59歳		1,857													3	77		1	2		
60歳～69歳		1,149														58			4		
70歳～																43					
70歳～79歳		684																	3		
80歳以上		437																	1		

* 39週分の突発性発疹「10-14歳」を「～6ヶ月」に、突発性発疹3歳を手足口病3歳に訂正報告あり